

松江観光大使のお仕事

山口 透

松江北高 1980 年卒、31 期

大陸貿易株式会社 理事

(2025 年 12 月近況報告)



還暦を迎えた頃からでしょうか、故郷松江に対する愛着の念がますます募り、何かお手伝いできることがないかと考えていました。ちょうどその頃、最後の海外赴任地となったフランスから帰国していたのですが、松江にいる同級生から「ちょっと松江のインバウンド観光を手伝ってくれませんか。松江は結構フランス人の観光客が多いんだわ。で、どうやったらもっと増やせるか、相談にのってごしない。」というありがたいお話を伺ったのです。

さっそく松江市国際観光課とのやり取りが始まりました。私は、フランス人が魅かれるものや外国から見た松江の魅力といったプレゼンテーションを行いました。市長にフランスを訪問いただき、松江市と親和性のある市との姉妹都市提携を締結するという構想もありました。

こうして、松江観光大使を拝命し、まずは日本でできることからやりましょう、ということで実現したのが、在日フランス商工会議所との協働による「在日フランス人モニターツアー」の実施でした。松江を訪れたことのないフランス人 6 名を 2 泊 3 日のツアーでお招きしたのです。

松江城をバックにして



1日目:松江城、堀川遊覧、明々庵でお茶体験(宿泊 大橋館)

2日目:足立美術館、由志園、美保関(宿泊 エクセルホテル東急)

3日目:安部栄四郎記念館、彩雲堂、山本漆器店、意見交換会

このツアーの中でフランス人からいちばん高い評価を得たのは安部栄四郎記念館でした。

出雲和紙の歴史、安部家のファミリー・ヒストリー、和紙すき体験、その工房の佇まい、ひなびた里山の風景、すべてがフランス人の琴線に触れたようで、目を輝かせていました。

総じて松江の人たちとのふれあいや、商家の歴史を知ることがとても楽しかったと言っていました。意外だったのが、フランス人がご朱印帳に強い興味を示したことでした。訪れた神社でご朱印をもらっては、誇らしげに見せ合っている姿が微笑ましかったです。

私にとっても新しい発見の多いツアーでした。改めて島根・松江のポテンシャルを感じることができ、子供の頃からなじんでいる「国際観光都市松江」という言葉を、誇りと共に思い出した数日間でした。

足立美術館



安部栄四郎記念館



意見交換会の様子

